

県立高等学校管理規則の一部を改正する規則（案）に対して提出された御意見と県の考え方について

※いただいた御意見について、趣旨を損なわない範囲で要約し、取りまとめさせていただきました。

No.	御意見	県の考え方
1	<p>「県立高等学校管理規則の一部改正（案）の概要」の説明をもっと丁寧にするべきです。</p> <p>(1)「中学校卒業予定者数を基に、高等学校等への進学率、定時制・通信制への進学見込み者及び県内私立高等学校、県内市立高等学校並びに県外高等学校の全日制への進学見込み者数等を勘案して策定しています」と説明していますが、7月8日に開催された千葉県公立高等学校協議会において、中学校卒業予定者数は「52,320人程度と見込まれ、前年度比で約870人の減となることから、令和7年度の公立高等学校（全日制）の募集定員を、前年度比880人減」と合意・決定されたことが欠落しています。</p> <p>(2)「公立高等学校（全日制）の募集定員が880人減」の内訳として、県立が800人減に加え、市立稲毛の募集停止と市立稲毛国際中等教育学校への転換に伴い、市立稲毛の現在の高校1年6学級が来年度は市立稲毛国際中等教育学校4年の4学級になるのに伴い、実質80人減となることの説明も必要です。</p>	<p>県立高校の募集定員については、これまでも千葉県公立高等学校協議会において承認された「公立高等学校生徒募集計画」に基づき定めてきたところです。</p> <p>令和7年度の千葉県公立高等学校生徒募集定員につきましては、本県ウェブサイトにおいて公表したとおりです。</p> <p>市立高等学校の募集定員については、県内公立高等学校設置者間で情報共有し、県でも動向を把握するよう努めております。</p> <p>いただいた御意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
2	<p>子どもの権利条約第12条の「意見表明権」を遵守した手続きを検討すべきです。埼玉県男女共同参画苦情処理委員による勧告について、埼玉県内の高校生が反対署名を集約・提出したことも記憶に新しいところです。「適正規模」を下回る高校が学級減となれば、統廃合の対象校となる可能性もあることから、在校生・保護者に加え、学区内の中学生とその保護者にとっても他人事ではありません。現在、「地域フォーラム」が開催中ですが、高校生と中学生の代表の参加も検討すべきですし、それが難しいならアンケート等による意見の集約手続きも検討すべきです。</p>	<p>「地域フォーラム」では、地域フォーラム実施校のあり方について、各学校の関係者等からアンケートも活用し意見を伺っているところです。</p>
3	<p>都市部の高校の学級数を減らすのであれば、まずは適正規模とされる1学年4～8学級を超えている幕張総合、次いで船橋、柏南、流山おおたかの森、計4校から減らすべきである。</p>	<p>県立高校改革推進プランでは、県立高校の適正規模を、都市部で1学年6～8学級、郡部では1学年4～8学級とし、適正規模に満たない学校は統合の対象として検討しますが、学校・地域の状況等により統合しない場合もあります。都市部の適正規模のあり方については、中学校卒業予定者数の動向を踏まえ、引き続き検討してまいります。</p>

4	<p>近年の志願状況を参照すると、40名を超える大幅な定員割れの学校がある一方、人気が集出し大幅な定員超過となる学校があり、二極化しているように感じます。</p> <p>つきましては、募集定員を減らす学校については40名を超える大幅な定員割れが複数年にわたり続いている学校に限定していただき、それ以外の学校については定員を減らすことなく、生徒・保護者のニーズに応じていただきますよう、お願い申し上げます。</p>	<p>県立高校の募集定員については、中学校卒業予定者数から算出した県全体の総学級数に基づき、各学区の中学校卒業予定者数の増減を踏まえ、入学者選抜における志願倍率の推移や学校の施設状況等を総合的に勘案して決定しています。今後も適切な募集定員の策定に努めてまいります。</p>
5	<p>千葉県は近隣都県や全国の各都府県と異なり県立高等学校に学区制が残存しており、生徒の多様な選択を阻んでいる状態が続いております。</p> <p>千葉県の県立高等学校も、各校がそれぞれ異なる魅力を持った素晴らしい学校であり、本来であれば生徒の選択肢もたくさんあると思います。にもかかわらず、学区制で生徒の選択を制限するのは時代錯誤と考えます。</p> <p>実際に、学区制がある影響で学区外の学校への志願を涙を吞んで諦めざるを得なかったケースも多数知っております。</p> <p>また近年、生徒の進学先は多様化しており、県内のみならず県外の私立高校へ進学する学生も多くなっております。これは、長距離通学を厭わず、多様な選択肢から自らに合う学校を選ぶ傾向が高まっていることの現れと感じます。</p> <p>つきましては、千葉県においても生徒・保護者が幅広い選択肢の中から自らに合う学校を選んで志願することができるよう、学区制を撤廃し全県1区制としていただけますよう、強く要望いたします。どうかよろしくようお願い申し上げます。</p>	<p>学区の在り方については、生徒や保護者のニーズ等を踏まえながら、引き続き検討してまいります。</p>
6	<p>現在、埼玉県では男女別学校の共学化の検討が進んでおり、宮城県などでは共学化が達成されている他、東京都では男女別定員が撤廃され、男女間の教育機会の格差が解消されております。</p> <p>一方で千葉県では、十数年前に女子高の共学化が進んだものの、依然として2校の女子高が残存しております。その上で栃木県や群馬県、埼玉県のように対応する男子校がなく、主に女子高の所在する地域において男女間の教育機会に格差があると考えております。</p> <p>女子高の教育の意義や、女子高を2校残した経緯は重々承知しておりますが、公教育において男女間の教育機会に差があることは望ましいとは考えておりません。また、少子化が進む中、男子高の新設や既存の高校の男子高化（女子の募集停止）なども可能であるとは考えておりません。</p> <p>つきましては、現在も残存する女子高2校の共学化の検討をお願いいたします。</p>	<p>ご指摘のとおり、平成14年度から平成20年度にかけて、「県立高等学校再編計画」に基づき、女子校13校のうち、11校を共学化いたしました。</p> <p>共学化を行わない2校については、女子校に進学を希望する生徒に配慮し、平成23年度入学生より学区を県内全域としたところです。</p> <p>今後も、志願状況や他県における議論の状況等を注視してまいります。</p>

7	<p>近年、主に地方部・郡部において全国募集をする自治体の高校が増えており、近隣でも東京都では神津島や八丈島などの島嶼部において島留学制度を採用し、所在する地域以外の生徒の募集を行っている高校が増えております。</p> <p>全国募集等を行っている高校は、所在する地域の生徒と制度を利用して留学する生徒とで切磋琢磨し、互いにいい刺激を与えあってよりよい高校生活を送っているように感じます。</p> <p>千葉県においても、各高校それぞれ特色ある教育を展開しており、全国に誇れるものであると考えます。</p> <p>つきましては、千葉県においても郡部の高校で全国募集を行う検討を進めていただきますよう、よろしくお願いいたします。</p>	<p>各校の学びの特色を生かし、県内外を問わず幅広く生徒募集を行うことは、特に郡部において意義のあることと認識しています。</p> <p>まずは水産系の学科における、柔軟な生徒募集について、引き続き検討してまいります。</p>
---	---	---